

第3学年1組 国語科学習指導案

児童数 11名
指導者 教諭

- 1 単元名 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう
「すがたをかえる大豆」「食べ物のひみつを教えます」(光村図書3年)
～「へんしん!食べ物ひみつリーフレット」を作り、〇〇小の3年生に伝えよう～

2 単元について

○ 単元観について

本単元は、例の書き方に着目して、教材文「すがたをかえる大豆」を読んで説明の仕方の工夫を見つけ、それらを生かして自分が選んだ身近な食材について調べて説明する文章を書くという構成になっている。自分が選んだ興味のある食材について情報を収集したり、前単元で学んだ分かりやすい説明の仕方を生かして書いたりすることができるため、単元を通して意欲的に学習を進められる内容になっている。

また、教材文「すがたをかえる大豆」は、児童にとっても身近で普段からよく食べている食品が大豆でできていたという驚きや新しい事実を知りながら論理的に読み進められる文章である。「はじめ・中・おわり」の三つの大きなまとまりで構成され、「はじめ」は 話題提示(大豆をおいしく食べるための工夫)について、「中」で五つの事例を用いて説明し、「おわり」では筆者の意見(大豆のよさに気付き、おいしく食べてきた昔の人の知恵のすばらしさ)を説明している。そのため、説明の中心となる語や文を捉えたり、段落相互の関係を考えながら、筆者の説明の工夫を見付けたりするのに適した教材である。

○ 児童観について

本学級の児童は、全体的に知的好奇心が高く、自分の考えを積極的に発表したり、友達の考えを共感的に聞こうとしたりする児童が多い。1学期に学習した「こまを楽しむ」では、「はじめ・中・おわり」の文章構成に気を付けて読み、段落とその中心を捉える学習を通して、全体と中心の関係に着目して読むことができるようになってきた。また、「こまを楽しむ」に出てきた6つのこまの中から、一番遊んでみたいものを選び、理由と合わせてシートにまとめ、友達と感想を伝え合うことができた。そして、6つのこまで実際に遊びながら、それぞれのこまの楽しみ方や作り方の工夫を体感し、こまの楽しさを互いに共有することもできた。

さらに、「はじめて知ったことを伝えよう」の学習では、「鳥になったきょうりゅうの話」を読んで「これだけは伝えたい」内容をお互いに交流したり、図鑑や科学読み物を読んで初めて知ったことをお家の方に伝えたりすることで、幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができた。

しかし、説明的な文章を読む際、なぜその事例の順で書かれているのかや、そこに筆者のどのような意図があるのかを読み取ることについては、全体的に苦手としている児童が多い。

○ 指導観について

本単元では、「すがたをかえる大豆」を読んで説明の仕方の工夫を理解し、それらを活用して、児童自身が総合的な学習でも交流がある、他県の3年生にぜひ伝えたいと思う食べ物のひみつについて説明する文章を書くというゴールを設定することで、単元全体を通して意欲をもたせていく。

第一次では、児童の関心を引き出すために、食材が他の食品に姿を変えたクイズを提示する。また、単元のゴールのイメージがもてるように、付けたい力を意識して指導者が作成した「へんしん!食べものひみつリーフレット」のモデルを提示する。そして、リーフレットを作るためには、どのような力を付けることが必要か児童と話し合い、一緒に学習計画を立てる。そうすることで、児童が学習の必然性をより感じる可以考虑。また学習の始まりと同時に、姿を変えていく食べ物に関する図書資料を教室に置き、関連する読書を進めていく。

第二次では、「すがたをかえる大豆」から筆者の説明の工夫を探らせていく。そのために、文章が「はじめ」「中」「おわり」に分けられることや、「中」には事例が列挙されているといった文章の構成を押さえた上で、事例が順序立てて整理されていること、写真資料が効果的に使われていることなどにも気付かせる。また、事例の順序について考えさせるために、「いちばん分かりやすいのは」「次に」「さらに」などの接続語に着目して読み取らせることで、事例が提示される順番の工夫(「大豆に色や形が似ていて大豆からできていることが想像しやすいもの」から、「大豆に手を加えて長い時間調理されていて、大豆からできていることを想像しにくいもの」の順)を見付けさせた。

第三次では、各自が選んだ食べ物について、学んだことを生かしながら、リーフレットにまとめさせていく。第二次で読み取った筆者の説明の工夫を思い出しながら、自分が選んだ食べ物に変身していく様子を書きまとめさせる。具体的には、「はじめ」の部分に選んだ食材とその特徴等、「中」に加工の工程と加工後の食品について、「おわり」にまとめの文と感想等を書くように指導する。

また、単元全体を通してタブレット端末を効果的に活用することで考えの共有化を図っていく。Googleのジャムボード上に教材文を貼り、自分やグループの考えを書き込むことで、筆者の説明の工夫を見付けるための話し合い活動が円滑に進んだり、それぞれのグループの考えを全体で共有したりすることができ、単元のねらいにせまることができるであろうと考える。

3 単元の目標

- (1) 比較や分類の仕方、辞書の使い方を理解し使うことができる。【知識及び技能】
- (2) 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝えようとする。【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|----------------------------|--|--|
| 比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使っている。 | 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。 「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。 | 積極的に説明される内容とそれを支える事例との関係などについて叙述を基に捉えたり、これまでの学習を生かして文章の説明の工夫を見つけ、それを生かして書こうとしたりしている。 |

5 単元の指導計画（全15時間）

- (1) 第一次 「すがたをかえる大豆」を読んで大まかな内容を捉え、学習計画を立てる。・・・1時間
- (2) 第二次 筆者の説明の工夫を見つける。・・・6時間（本時5／6）
- (3) 第三次 筆者の説明の工夫をいかして、「へんしん！食べ物みつりフレッツ」を作り、〇〇小の3年生に伝える。・・・8時間

6 本時の学習（6／15）

| <p>【本時のねらいと身に付けさせたいかぜっこパワー】</p> <p>○「中」のそれぞれの段落の内容を読み取り、例の書き方やその順序などの説明の仕方の工夫を見つけることができる。【思考・判断・表現】</p> <p>○話し合う力：「トリオでかぜっこ」で、言葉による見方・考え方を働かせることで、筆者の説明の工夫に気付かせたい。</p> | | | |
|---|-------------------|---|--|
| <p>【期待する児童の変容】</p> <p>「接続語」「大豆をおいしく食べる工夫」「食品の形や色」「作り方」の4つの観点に着目して読み、「中」の事例が、「簡単なもの」から「難しいもの」になるような説明の工夫がされていることを捉えることができる。</p> | | <p>【タブレット端末の活用について】</p> <p>教材文やキーワードをジャムボード上に貼り付けることで、自分の考えを書き込んだり、グループでの話し合いができるようにしたりする。全体では、電子黒板でグループごとのシートを比較しながら提示することで、他のグループとの共通点や相違点に気付かせ、筆者の事例提示の工夫について、共有化を図る。</p> | |
| 過程 | 学習活動 | 形態 | 指導上の留意点 |
| 導入 | 1 前時の学習を振り返る。 | CW | <ul style="list-style-type: none"> ・「中」の部分にはどんな例が挙げられていたか、段落のどの部分に着目するとその内容が分かるのかを振り返ることで、単元のゴールであるリーフレット作成のための「技」を全体で確認する。 ・「中」の5つの事例の順序を入れ替えて提示し、この順序でもいいのか問うことで、筆者がどんな順序の工夫をしたのか知りたいという課題をもたせる。 |
| | 2 本時の学習のめあてを確かめる。 | CW | <ul style="list-style-type: none"> ・本時では、事例の順序についての筆者の工夫に気付かせるために、「話し合う力」を提示する。 ・筆者は、なぜこの順序で例を挙げたのかを全体に問い、この秘密を見付けることが、自分たちのリーフレット作りの大きなカギになることを伝え、本時への意欲付けにする。 |
| <p>めあて 「中」をくわしく読もう。 ～しょうかいするじゅんじょのヒミツを見つけよう。～（話し合う力）</p> | | | |

| | | | |
|-----|---|---|---|
| 展開 | <p>3 順序にはどんなヒミツが隠されているのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自分の考えを整理する。(かく①) 自分の考えをもとに、トリオで意見をまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【トリオでかぜっこ】 「自分の考えと、同じところやちがうところをくらべながら聞き、じゅんじよのヒミツをまとめよう。」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> みんなで交流する。 | <p>PW</p> <p>GW</p> <p>CW</p> <p>CW</p> | <p>〈かく①の場面で〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 「中」の順序性(簡単→難しい)の工夫を捉えやすくするために、「接続語」「おいしく食べる工夫」「大豆の形(変化の有無など)」「作る時間」の4つの観点を提示する。 <p>〈トリオでかぜっこ〉の場面で)</p> <ul style="list-style-type: none"> ジャムボード上に、PW で使用したワークシートを貼り、その中に自分の考えを書き込みながら説明できるようにする。 どうしても話し合いがまとまらない場合は、他のトリオのシートを見て、話し合いのヒントとさせる。 筆者がどんな工夫をしているのかまとめられるように、トリオでの話し合いの方法として、同じ意見・違う意見を聞き分け、なるほどと思った意見に絞らせる。 <p>〈みんなでかぜっこ〉の場面で)</p> <ul style="list-style-type: none"> トリオのシートを電子黒板で提示しながら説明させる。 1～3つ目の事例と、4, 5の事例の違いを問うことで、「すがたの変わり方が大きい順」から、さらに「作り方が特別な順」となっていることに気付かせる。 <p>CW</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者は、調理の仕方が「かんたんなもの」→「むずかしい」ものになるように、接続語を工夫しながら説明していることをおさえ、簡単なものから説明することで、読み手にとって分かりやすい文章になっていることに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価の観点】</p> <p>B 接続語に着目し、事例の順序の工夫について考えをもっている。(思考・判断・表現)</p> <p>●どれが一番簡単か、写真を見ながら一緒に振り返る。</p> </div> |
| | <p>4 本時のまとめをする。</p> | | |
| | <p>まとめ</p> <p>【じゅんじよのヒミツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 見て大豆だと分かりやすいものから説明。 作り方がかんたんなものから説明。 接続語や写真をくふうすることで、「かんたんなもの」→「むずかしい」ものと読み手に伝えることができる。 | | |
| まとめ | <p>5 学習を振り返り、次時への見通しをもつ。(かく②)</p> | <p>PW</p> | <ul style="list-style-type: none"> 見つけた工夫を説明の技として積み重ねていくことができるように、「今日発見した説明の技」という視点で振り返らせる。 本時の学習を振り返って、自分ならどのような順序で説明するのかを何人かに問うことで、次時への意欲付けにする。 |